

インバウンドの「変化の兆し」をいち早く  
**都道府県別訪日外客数と訪問率**  
月次指標の早期推計：7月レポート

野村亮輔（副主任研究員）  
稲田義久（APIR 研究統括兼数量経済分析センター長）  
松林洋一（APIR 上席研究員）  
内容に関するお問い合わせは下記まで  
e-mail: nomura-r@apir.or.jp

**ポイント**

●8月発表データのレビュー：JNTO 訪日外客数

▶JNTO 訪日外客統計によれば(図 1 及び表 4)、7月の訪日外客総数(推計値)は329万2,500人となり、5カ月連続で300万人を超えた(前年同月比+41.9%)。夏季休暇に伴う訪日旅行需要の高まりもあり、単月として過去最高を更新。また、同月の出国日本人数は104万8,800人と、4カ月ぶりに100万人超の水準となった(同+17.6%)。なお、19年同月比では-36.8%と依然コロナ禍前の水準を回復できていない。

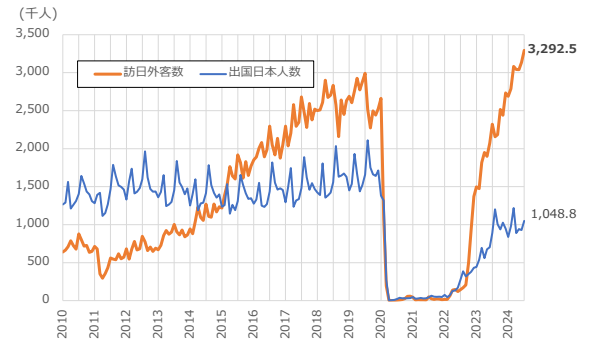
▶訪日外客数のトップ5を国・地域別にみると(図 2 及び表 4)、7月は中国が77万6,500人(前年同月比+147.8%)で、コロナ禍以降初めてトップとなった。なお、19年平均比-2.9%まで回復してきており、24年に入って回復のペースが加速している。次いで韓国が75万7,700人(同+20.9%)、台湾が57万1,700人(同+35.4%)、香港が27万9,100人(同+29.0%)、米国が25万1,200人(同+26.3%)と続く。

▶目的別訪日外客総数(暫定値)をみれば(図 3 及び表 5)、5月は304万294人となった(前年同月比+60.1%)。うち、観光客は275万8,219人と8カ月連続で200万人を超える水準(同+66.5%)。商用客は10万6,519人(同+11.6%)、その他客は17万5,556人(同+18.9%)であった。

▶観光客のTOP5を国・地域別にみれば(表 5)、5月は韓国が70万6,635人(前年同月比+45.3%)と最多であった。次いで中国が47万2,394人(同+499.7%)、台湾が45万854人(同+54.8%)、米国が23万1,028人(同+37.6%)、香港が21万3,788人(同+41.3%)と続く。

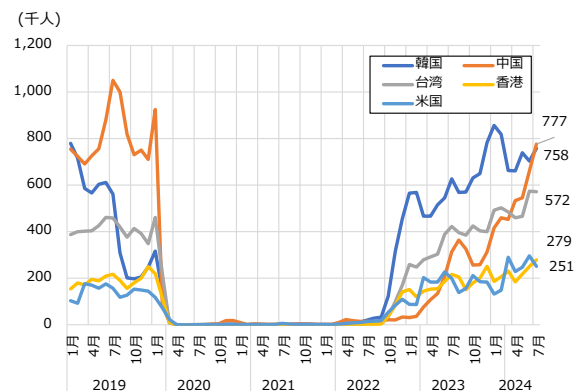
▶アジアや欧米地域において、夏季休暇が8月末までであることもあり、先行きの訪日外客数は引き続き増加が見込まれよう。一方で、(1)宿泊業等における人手不足、(2)オーバーツーリズム問題に加え、(3)航空燃料不足による国際線増便の見合わせなど課題が山積している。観光庁は8月27日に公表した2025年度の予算概算要求において、観光地・観光産業における人材不足対策やオーバーツーリズムの未然防止・抑制に向けた支援事業をいずれも前年度予算から増額し、対策を行う予定である。また、航空燃料不足解消に向けて政府は、官民一体となった行動計画を作成し、対策を行うことを発表した。急増する訪日外客に対して上述したようなきめ細やかな支援を行っていくかが重要となろう。

図 1 訪日外客数及び出国日本人数の推移



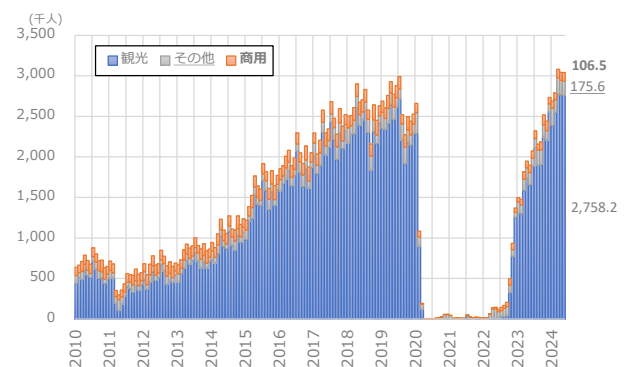
出所:日本政府観光局(JNTO)「訪日外客数」より筆者作成  
注) 2022年まで確定値、23年、24年1-5月は暫定値、24年6-7月は推計値

図 2 上位5カ国・地域別訪日外客数の推移



出所:日本政府観光局(JNTO)「訪日外客数」より筆者作成。

図 3 目的別訪日外客数推移



出所:日本政府観光局(JNTO)「訪日外客数」より筆者作成  
注) 目的別訪日外客数については訪日外客数(推計値)から2カ月遅れて発表される。「観光客」とは、短期滞在の入国者から「商用客」を引いた入国外国人で、親族友人訪問を含んでいる。「その他客」とは、観光、商用目的を除く入国外国人で、留学、研修、外交・公用などが含まれる。

\*なお、観光庁「訪日外国人消費動向調査」の訪問率のデータが2023年9月から公表が再開された。このため、中断していた訪問率の月次推計についてはデータの蓄積を待って今後再開する予定である。

トピックス 1

● 7月関西の財貨・サービス貿易及び6月のサービス産業動向

▶ 関西 7月の輸出額は前年同月比+7.7%と3カ月連続の増加となった(前月:同+2.0%)。また、輸入額は同+13.8%と4カ月連続の増加(前月:同+1.5%)。結果、関西の貿易収支は+1,111億円と6カ月連続の黒字だが(図4)、輸入の伸びが輸出のそれを上回ったため、黒字幅は同-42.3%縮小した(前月:同+4.4%)。

▶ 対中貿易動向をみると(図5)、関西7月の対中輸出は前年同月比+9.3%と5カ月連続で増加した(前月:同+0.3%)。輸出増に寄与したのは半導体等製造装置やプラスチック等であった。また、対中輸入は同+17.2%と4カ月連続の増加(前月:同+1.3%)。輸入増に寄与したのは通信機やがん具及び遊戯用具等であった。

▶ 7月の関西国際空港(以下、関空)への訪日外客数は83万1,035人となり(図6)、2カ月連続で80万人を超えた(前月:81万2,689人)。前年同月比では+38.2%と大幅増加(前月:同+47.1%)。7月はアジアや欧米地域における夏季休暇の開始で訪日旅行需要が増加した影響もあり、外国人入国者数は好調を維持した。また、7月の日本人出国者数は19万3,173人であった。前年同月比+25.0%増加。なお、2019年同月比では-39.3%と、前月(同-41.8%)から減少幅は幾分縮小したが、日本人出国者数は依然コロナ禍前を回復できていない。

▶ 6月のサービス業の活動は一進一退で推移している(図7)。サービス業の生産活動を示す第3次産業活動指数(季節調整済み:2015年平均=100)をみれば、6月は101.4で前月比-1.3%低下し、3カ月ぶりのマイナスとなった(前月:同+0.6%)。また、対面型サービス業指数\*は96.4で同-1.0%低下し、3カ月ぶりのマイナス(前月:同+0.8%)。うち、運輸業(同-4.6%、3カ月ぶり)が低下に寄与した。結果、4-6月期の第3次産業活動指数は前期比+1.2%と3四半期ぶりのプラス(1-3月期:同-0.1%)。また、対面型サービス業は同+2.4%と3四半期ぶりのプラスとなった(1-3月期:同-2.0%)。

▶ 観光関連指数\*\*(2015年平均=100)は、94.2と前月比+0.9%上昇し、3カ月連続のプラス(前月:同+1.7%)。うち、飲食店、飲食サービス業(同+2.2%、2カ月連続)、宿泊業(同+5.8%、2カ月ぶり)等が上昇に寄与した。4-6月期の観光関連指数は前期比-0.3%と2四半期ぶりのマイナスとなった(1-3月期:同+1.7%)。

\*対面型サービス業は、運輸業、宿泊業、飲食店、飲食サービス業、その他の生活関連サービス業及び娯楽業を指す。

\*\*観光関連指数は第3次産業活動指数のうち、観光庁「旅行・観光サテライト勘定」の分類に対応する、鉄道旅客運送業、道路旅客運送業、水運旅客運送業、航空旅客運送業、旅客運送業、その他のレンタル、自動車賃貸業、宿泊業、飲食店、飲食サービス業、旅行業、映画館、劇場・興行団の各指数の加重平均。

図4 関西 対世界貿易の推移

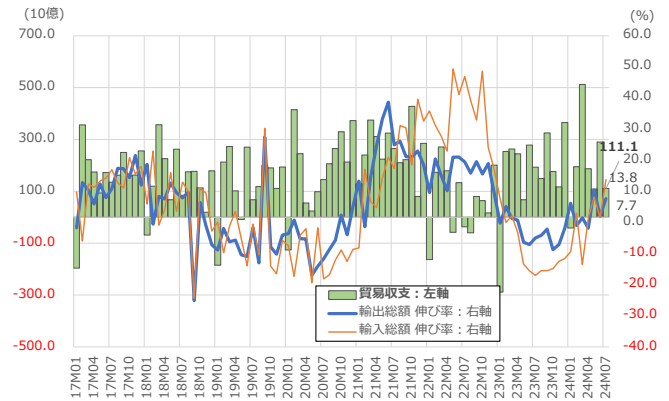
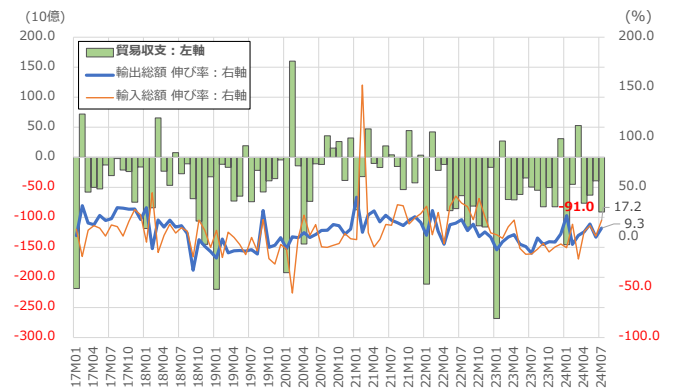
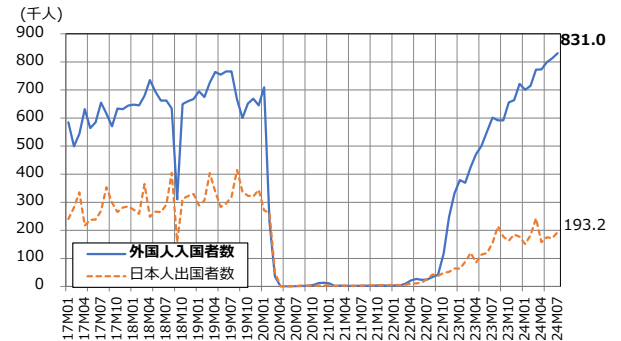


図5 関西 対中貿易の推移



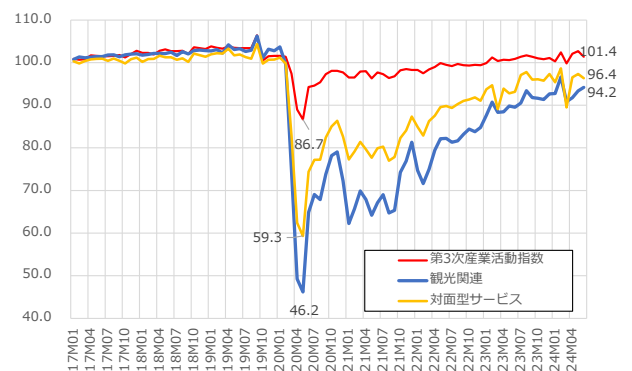
出所:「大阪税関貿易速報資料:近畿圏」より筆者作成

図6 関西国際空港 訪日外客入国者数推移



出所:出入国管理統計より筆者作成。2024年7月値は速報値

図7 観光関連 対面型サービス 第3次産業:2015年=100



出所:経済産業省「第3次産業活動指数」より筆者作成

## トピックス 2

### ●5月延べ宿泊者数の動向：関西2府8県

▶観光庁によれば、5月の関西2府8県の延べ宿泊者数(全体)は**11,862.0千人泊**であった(表1)。前年同月比では**+11.1%**と増加幅は前月(同+19.3%)から幾分縮小した。

▶日本人延べ宿泊者数は**7,807.5千人泊**となった。前年同月比**-2.3%**と**2カ月ぶりの減少**(前月:同+5.3%)(表1及び図8)。なお、19年同月比でも-3.3%と2カ月連続で減少しており、日本人延べ宿泊者数は停滞している。府県別に延べ宿泊者数を降順にみれば、大阪府2,641.5千人泊、京都府1,536.4千人泊、兵庫県1,146.3千人泊、三重県721.7千人泊、滋賀県403.8千人泊、和歌山県346.2千人泊、福井県280.5千人泊、奈良県252.7千人泊、鳥取県252.5千人泊、徳島県226.1千人泊であった。前年同月比でみると、**京都府が12カ月連続で、大阪府、兵庫県、和歌山県がいずれも2カ月ぶりに減少**しており、日本人延べ宿泊者の減少に寄与した。

▶外国人延べ宿泊者数は**4,054.5千人泊**となった。前年同月比**+51.2%**と**6カ月連続で2桁の伸びが続いている**(表1及び図9)。府県別に延べ宿泊者数を降順にみれば、大阪府2,125.6千人泊、京都府1,572.4千人泊、兵庫県155.6千人泊、和歌山県79.7千人泊、奈良県36.3千人泊、滋賀県22.9千人泊、三重県20.7千人泊、徳島県16.7千人泊、福井県13.6千人泊、鳥取県11.0千人泊であった。前年同月比をみれば、いずれの府県も大幅増加となったが、特に**大阪府(同+42.9%)や京都府(同+21.5%)が増加に寄与した**。

▶関西2府8県延べ宿泊者を居住地別でみると(図10)、県内の延べ宿泊者数は1,382.7千人泊、県外は10,036.3千人泊であった。前年同月比では県内は同-8.9%と14カ月連続のマイナス(前月:同-3.8%)。一方、県外(含む外国人)は同+14.4%と31カ月連続のプラスとなった(前月:同+26.0%)。県内の延べ宿泊者数は伸び悩む一方、外国人宿泊者を含む県外の延べ宿泊者は堅調に推移している。

図8 府県別日本人延べ宿泊者数 推移

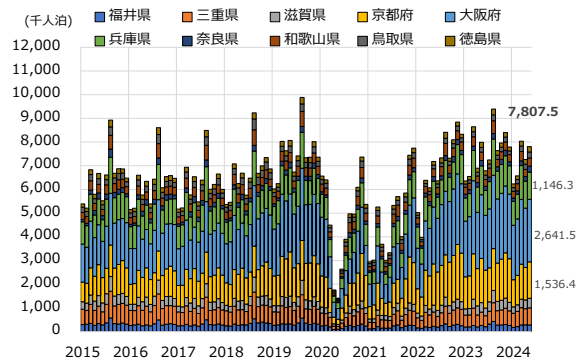


図9 府県別外国人延べ宿泊者数の推移

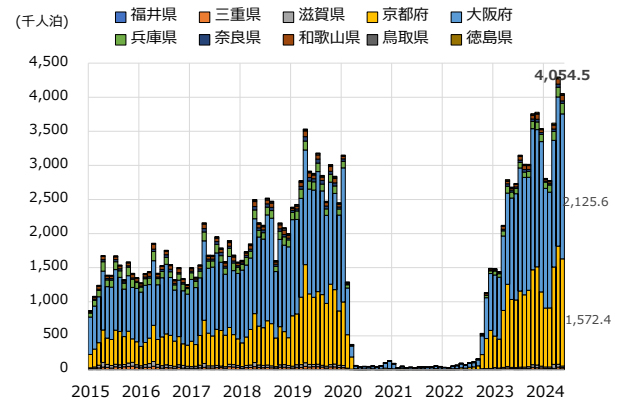
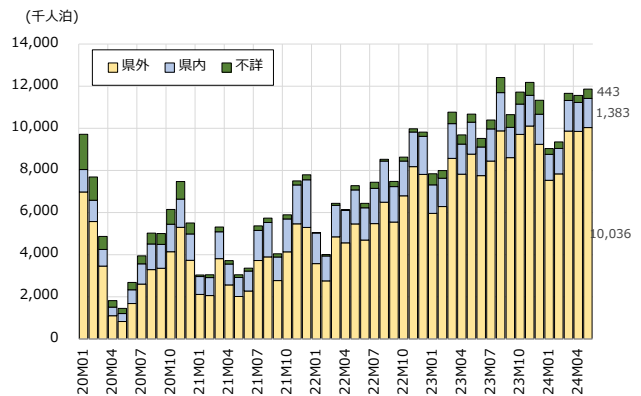


図10 関西 居住地別延べ宿泊者比率の推移



注) 県外の宿泊者には外国人宿泊者も含まれる。

表1 関西 延べ宿泊者数伸び率：5月

2024年5月	総数			日本人			外国人		
	延べ宿泊者数： (千人泊)	前年比伸び率： 当月(%)	前年比伸び率： 前月(%)	延べ宿泊者数： (千人泊)	前年比伸び率： 当月(%)	前年比伸び率： 前月(%)	延べ宿泊者数： (千人泊)	前年比伸び率： 当月(%)	前年比伸び率： 前月(%)
福井県	294.1	10.3	42.3	280.5	7.7	42.6	13.6	120.0	32.0
三重県	742.4	29.0	35.7	721.7	28.5	35.5	20.7	49.2	40.1
滋賀県	426.7	1.9	2.6	403.8	0.5	-2.7	22.9	33.2	102.1
京都府	3,108.8	8.8	11.5	1,536.4	-17.4	-13.1	1,572.4	58.0	43.8
大阪府	4,767.1	14.1	26.4	2,641.5	-1.9	5.4	2,125.6	42.9	63.5
兵庫県	1,301.9	-0.6	9.5	1,146.3	-6.1	6.5	155.6	75.4	42.2
奈良県	289.0	14.3	11.6	252.7	12.9	8.5	36.3	25.0	27.1
和歌山県	426.0	10.2	17.2	346.2	-3.2	5.7	79.7	175.5	99.3
鳥取県	263.5	32.9	42.9	252.5	29.6	41.9	11.0	216.7	73.9
徳島県	242.8	5.8	15.3	226.1	3.4	15.7	16.7	54.7	9.8
関西2府4県	10,319.3	9.7	17.5	6,326.8	-6.4	0.2	3,992.5	50.8	54.4
関西2府8県	11,862.0	11.1	19.3	7,807.5	-2.3	5.3	4,054.5	51.2	54.0
全国	53,900.6	5.0	10.1	40,337.2	-4.7	0.3	13,563.4	50.4	46.9

出所：観光庁「宿泊旅行統計調査」(図8~10及び表1)より筆者作成

### トピックス 3

#### ● 2024年4-6月期国内旅行消費の動向：関西2府8県\*

▶観光庁によれば、**2024年4-6月期関西(2府8県ベース)の国内旅行消費額(速報)**は1兆3,278億円と、統計が利用可能な2017年以降、過去最高額を更新した(表2)。前年同期比+27.3%と**2四半期連続のプラス**となり、1-3月期(同+17.8%)から増加幅は拡大した。

▶国内旅行消費額のうち、**4-6月期の宿泊旅行消費額は9,982億円**で前年同期比+19.1%となり、**2四半期連続のプラス**(1-3月期：同+14.7%)(図11及び表2)。府県別に消費額を降順にみれば、大阪府2,712億円(同+14.2%)、京都府1,947億円(同+34.4%)、兵庫県1,873億円(同+66.5%)、三重県1,251億円(同+89.9%)、福井県651億円(同+113.6%)、奈良県487億円(同-25.7%)、和歌山県457億円(同-42.1%)、滋賀県258億円(同-38.1%)、鳥取県176億円(同-31.0%)、徳島県170億円(同-51.7%)であった。前年同期比でみると、滋賀県、奈良県、和歌山県、鳥取県と徳島県を除く府県がプラスとなり、うち**兵庫県や三重県が宿泊旅行消費額の増加に大きく寄与した**。

▶国内旅行消費額のうち、**4-6月期の日帰り旅行消費額は3,296億円**であった。**前年同期比+60.9%と3四半期連続のプラス**(1-3月期：同+30.8%)(図12及び表2)。府県別に消費額を降順にみれば、大阪府900億円(同+64.2%)、京都府480億円(同+79.6%)、兵庫県452億円(同+12.7%)、和歌山県416億円(同+953.4%)、三重県403億円(同+44.7%)、滋賀県253億円(同+139.5%)、福井県145億円(同-1.3%)、奈良県138億円(同-18.5%)、鳥取県75億円(同+5.8%)、徳島県36億円(同+58.0%)であった。前年同期比で見れば、**和歌山県が大幅プラス**となっており、**日帰り旅行消費額の増加に大きく寄与した**。

図11 関西2府8県 宿泊旅行消費額の推移

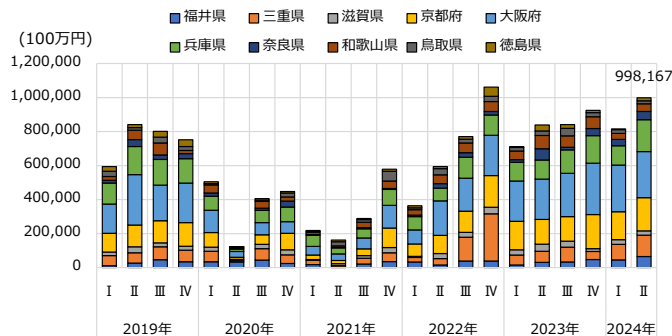
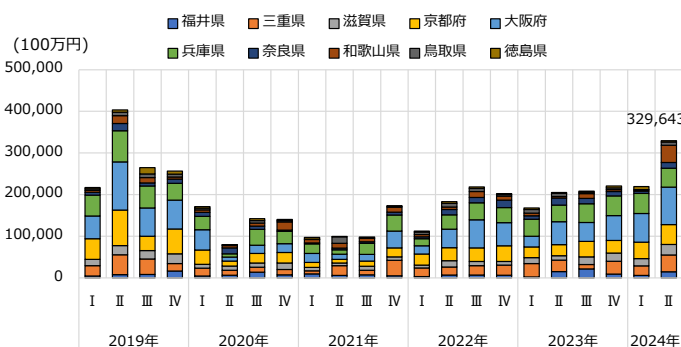


図12 関西2府8県 日帰り旅行消費額の推移



(注) 宿泊旅行、日帰り旅行ともに、観光・レクリエーション目的以外に帰省・知人訪問等、出張・業務目的を含む。

2023年までは確報。24年4-6月期は速報(上図も同様)。

出所：観光庁『旅行・観光消費動向調査』より作成。

表2 関西 国内旅行消費額：2024年4-6月期

	国内旅行消費額			宿泊旅行消費額			日帰り旅行消費額		
	金額： 100万円	前年比伸び率： 4-6月期(%)	前年比伸び率： 1-3月期(%)	金額： 100万円	前年比伸び率： 4-6月期(%)	前年比伸び率： 1-3月期(%)	金額： 100万円	前年比伸び率： 4-6月期(%)	前年比伸び率： 1-3月期(%)
福井県	79,625	76.2	203.7	65,121	113.6	203.3	14,504	-1.3	207.0
三重県	165,337	76.5	26.0	125,080	89.9	57.0	40,258	44.7	-29.8
滋賀県	51,086	-2.2	-1.3	25,825	-38.1	-13.4	25,261	139.5	25.7
京都府	242,664	41.5	5.5	194,691	34.4	-1.7	47,973	79.6	52.7
大阪府	361,228	23.6	30.2	271,216	14.2	15.3	90,012	64.2	167.3
兵庫県	232,464	52.3	7.8	187,273	66.5	3.8	45,191	12.7	18.4
奈良県	62,438	-24.2	81.4	48,662	-25.7	145.9	13,776	-18.5	-34.3
和歌山県	87,310	5.4	-33.3	45,694	-42.1	-31.0	41,616	953.4	-52.8
鳥取県	25,024	-23.1	-25.1	17,573	-31.0	3.2	7,451	5.8	-89.6
徳島県	20,634	-45.1	57.8	17,034	-51.7	13.4	3,600	58.0	119.9
<b>関西2府8県</b>	<b>1,327,811</b>	<b>27.3</b>	<b>17.8</b>	<b>998,167</b>	<b>19.1</b>	<b>14.7</b>	<b>329,643</b>	<b>60.9</b>	<b>30.8</b>

出所：観光庁『旅行・観光消費動向調査』より作成。

表4 2024年7月 訪日外客数 (JNTO 推計値) (前年同月比)

国・地域	総数 Total			総数 Total		
	2023年	2024年	伸率(%)	2023年	2024年	伸率(%)
	7月	7月		1-7月	1-7月	
総数	2,320,694	3,292,500	41.9	13,033,090	21,069,900	61.7
総数(中国除く)	2,007,366	2,516,000	25.3	7,525,421	12,998,100	72.7
韓国	626,830	757,700	20.9	908,096	3,844,600	323.4
中国	313,328	776,500	147.8	2,192,974	3,550,900	61.9
台湾	422,356	571,700	35.4	1,126,174	1,555,200	38.1
香港	216,413	279,100	29.0	547,412	671,800	22.7
タイ	49,613	53,500	7.8	278,023	328,100	18.0
シンガポール	25,320	28,100	11.0	211,609	261,100	23.4
マレーシア	17,357	19,300	11.2	230,145	293,400	27.5
インドネシア	28,489	29,600	3.9	328,853	457,300	39.1
フィリピン	51,711	55,500	7.3	345,671	381,500	10.4
ベトナム	44,773	49,700	11.0	92,588	136,800	47.8
インド	13,150	14,900	13.3	310,435	510,600	64.5
豪州	35,650	48,600	36.3	1,171,053	1,594,100	36.1
米国	198,845	251,200	26.3	222,052	320,500	44.3
カナダ	38,786	48,200	24.3	44,892	80,100	78.4
メキシコ	9,986	16,000	60.2	177,126	251,400	41.9
英国	26,965	32,900	22.0	153,266	221,700	44.7
フランス	31,132	37,400	20.1	125,796	180,300	43.3
ドイツ	19,081	22,700	19.0	73,333	114,500	56.1
イタリア	13,969	18,400	31.7	52,515	84,600	61.1
スペイン	12,985	18,700	44.0	19,421	46,800	141.0
ロシア	3,239	5,700	76.0	65,577	89,600	36.6
北欧地域	12,511	15,900	27.1	61,894	88,100	42.3
中東地域	9,937	12,800	28.8	538,879	807,100	49.8
その他	98,268	128,400	30.7	440,611	678,900	54.1

表5 2024年5月 目的別訪日外客数 (JNTO 暫定値) (前年同月比)

国・地域	総数 Total			観光客 Tourism			商用客 Business			その他客 Others		
	2023年	2024年	伸率(%)	2023年	2024年	伸率(%)	2023年	2024年	伸率(%)	2023年	2024年	伸率(%)
	5月	5月		5月	5月		5月	5月		5月		
総数	1,899,176	3,040,294	60.1	1,656,118	2,758,219	66.5	95,468	106,519	11.6	147,590	175,556	18.9
韓国	515,717	738,872	43.3	486,223	706,635	45.3	15,014	16,166	7.7	14,480	16,071	11.0
中国	134,510	545,552	305.6	78,769	472,394	499.7	20,265	23,419	15.6	35,476	49,739	40.2
台湾	303,343	466,008	53.6	291,185	450,854	54.8	6,491	8,130	25.3	5,667	7,024	23.9
香港	154,393	217,486	40.9	151,318	213,788	41.3	1,708	2,057	20.4	1,367	1,641	20.0
タイ	80,728	97,408	20.7	75,890	92,203	21.5	2,182	2,354	7.9	2,656	2,851	7.3
シンガポール	49,746	62,676	26.0	47,328	60,183	27.2	2,077	2,131	2.6	341	362	6.2
マレーシア	34,004	39,562	16.3	31,511	37,027	17.5	1,446	1,510	4.4	1,047	1,025	-2.1
インドネシア	31,120	41,274	32.6	20,489	30,087	46.8	1,319	1,419	7.6	9,312	9,768	4.9
フィリピン	49,939	67,443	35.1	41,090	56,561	37.7	3,141	4,766	51.7	5,708	6,116	7.1
ベトナム	45,768	50,575	10.5	10,611	13,267	25.0	2,939	3,230	9.9	32,218	34,078	5.8
インド	17,992	29,068	61.6	10,254	19,616	91.3	3,621	4,802	32.6	4,117	4,650	12.9
豪州	40,816	66,476	62.9	37,915	63,603	67.8	2,168	2,047	-5.6	733	826	12.7
米国	183,408	246,972	34.7	167,934	231,028	37.6	10,688	11,137	4.2	4,786	4,807	0.4
カナダ	42,285	55,811	32.0	40,475	53,834	33.0	1,081	1,156	6.9	729	821	12.6
メキシコ	8,465	11,514	36.0	8,003	11,021	37.7	278	296	6.5	184	197	7.1
英国	27,739	39,120	41.0	23,630	35,024	48.2	2,867	2,759	-3.8	1,242	1,337	7.6
フランス	26,754	38,159	42.6	23,160	34,485	48.9	2,305	2,053	-10.9	1,289	1,621	25.8
ドイツ	23,118	32,196	39.3	19,425	28,704	47.8	2,673	2,593	-3.0	1,020	899	-11.9
イタリア	11,828	17,443	47.5	9,910	15,689	58.3	1,350	1,299	-3.8	568	455	-19.9
ロシア	2,960	8,004	170.4	2,180	6,833	213.4	438	742	69.4	342	429	25.4
スペイン	8,581	13,417	56.4	7,758	12,446	60.4	515	553	7.4	308	418	35.7
中東地域	8,746	14,009	60.2	7,502	11,897	58.6	890	1,054	18.4	354	1,058	198.9
その他	97,216	141,249	45.3	63,558	101,040	59.0	10,012	10,846	8.3	23,646	29,363	24.2

注) 目的別訪日外客数の定義については、図3注参照。  
出所: 日本政府観光局(JNTO)、2024年8月21日付より筆者加工